

項目名	役割	行動指針	実施時期
入園者数100万人に向けた集客の取り組み	-	-	18年度

概要

基本構想の理念を実現するためには、将来にわたって持続可能な経営が必要である。現在の脆弱な経営基盤を再建し、「人と動物と環境の絆をつくる動物園」を世代を超えて存続させていくためには、まず職員の人件費を除いた基礎収支構造の均衡(経常収入と経常支出のバランス)が必要となる。このバランスを維持できる集客規模として、2011年度(平成23年度)の年間入園者数を100万人とすることを目標にする。以降、毎年100万人を維持することを目標とするが、少子化や人口減少などの経営環境の変化も踏まえ、基礎収支構造の均衡を優先する。

<年間入園者数100万人に向けた取り組み>

- ・新着動物や高い繁殖技術に基づく出産による集客(レッサーパンダ、ホッキョクグマなど)
- ・新たな展示方法や施設リニューアル(新設・改修)による集客(円山メソッドによる施設整備計画)
- ・新たなイベントによる集客(市民参加型や民間企業タイアップ型イベントの充実)
- ・新たなPR手法による集客(話題性の創出、Webの活用、ブランディング)
- ・観光ツアー、修学旅行誘致による集客(感動体験型ツアーの開発や学習教材の提供)

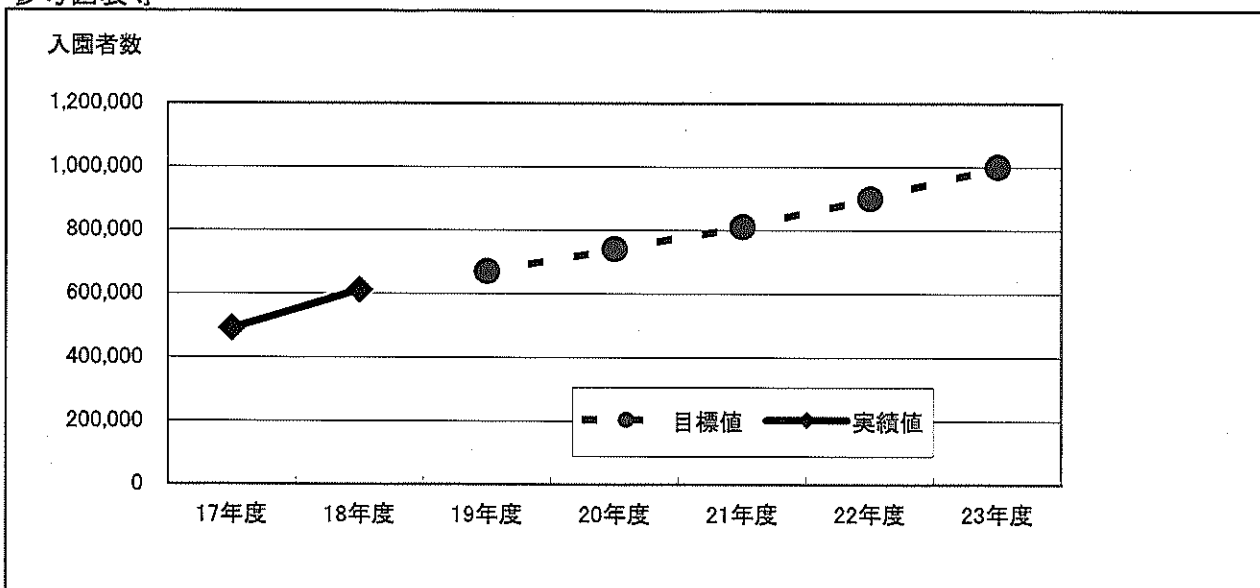
スケジュール

<入園者数の実績と計画>

2005年度(平成17年度)	490,914人	※昭和30年以降過去最低
2006年度(平成18年度)	611,521人	(前年度比25%増) ※実績値
2007年度(平成19年度)	670,000人	(前年度比10%増)
2008年度(平成20年度)	740,000人	(前年度比10%増)
2009年度(平成21年度)	810,000人	(前年度比10%増)
2010年度(平成22年度)	900,000人	(前年度比10%増)
2011年度(平成23年度)	1,000,000人	(前年度比10%増) ※開園60周年

- ・過去最高入園者数 1,247,395人(昭和49年度)

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
経常的収入増に向けた取り組み	-	-	18年度

## 概要

基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005年度(平成17年度)に比べ2011年度(平成23年度)までに経常的収入の倍増を目標とする。

## ＜経常収入増の具体的な取り組み＞

- ・年間パスポート料金の検討(展示内容のリニューアルに合わせて引上げを行う/実施未定)
- ・公共交通とのセット券の販売(「ウィZOOユーパスポート」試験販売/2007年度実施済)
- ・広告料収入の拡大(パンフ類、ホームページ広告/2007年度実施済、園内看板・ネーミングライツ検討)
- ・寄付金収入の拡大(企業、グッズ関係、動画スポンサー寄付/2007年度実施済)
- ・アニマルファミリー制度(市民にエサ代を寄付してもらおう/2008年度正式導入)
- ・基金の創設(大規模動物舎建設に向けた寄付の窓口として検討)

## スケジュール

## ■経常的収入の目標値

2005年度(平成17年度) 158,531千円 → 2010年度(平成23年度) 320,000千円

## ■うち入園料収入の目標値 ※49万人→100万人を想定

2005年度(平成17年度) 134,894千円 → 2010年度(平成23年度) 270,000千円

## ■うち広告料収入の目標値 ※園内広告含む

2005年度(平成17年度) 450千円 → 2010年度(平成23年度) 10,000千円

## ■うち寄付金収入の目標値 ※アニマルファミリー制度含む

2005年度(平成17年度) 0千円 → 2010年度(平成23年度) 20,000千円

## ■うち公園使用料収入の目標値 ※売店・食堂等

2005年度(平成17年度) 17,131千円 → 2010年度(平成23年度) 20,000千円

## 参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
経常的支出30%削減に向けた取り組み	-	-	18年度

概要

基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005年度(平成17年度)に比べ2011年度(平成23年度)までに経常的支出の30%削減を目標とする。

<経常支出削減の具体的な取り組み>

- ・冬季週休日の設定  
来園者が少ない冬季に休園日を設定し、券売や清掃委託業務の経費を削減する。
- ・業務委託の効率化  
各種維持管理業務の一本化など類似する委託業務の統合、自動券売機の導入による経費削減など。
- ・光熱水費、エサ代等の節約  
水循環施設の導入、漏水対策、清掃時の節約による水道代の節約  
省エネ技術の導入、温度設定の変更・機密性向上、暖房不要な動物舎の別棟化による光熱費の節約  
企業協賛によるエサの寄付、大量一括購入などによる飼料購入経費金額の削減
- ・老朽、不用施設の廃止  
熱帯植物館、昆虫館、みかん温室は解体、別施設に機能を移転し維持管理費・光熱費を節約する。

スケジュール

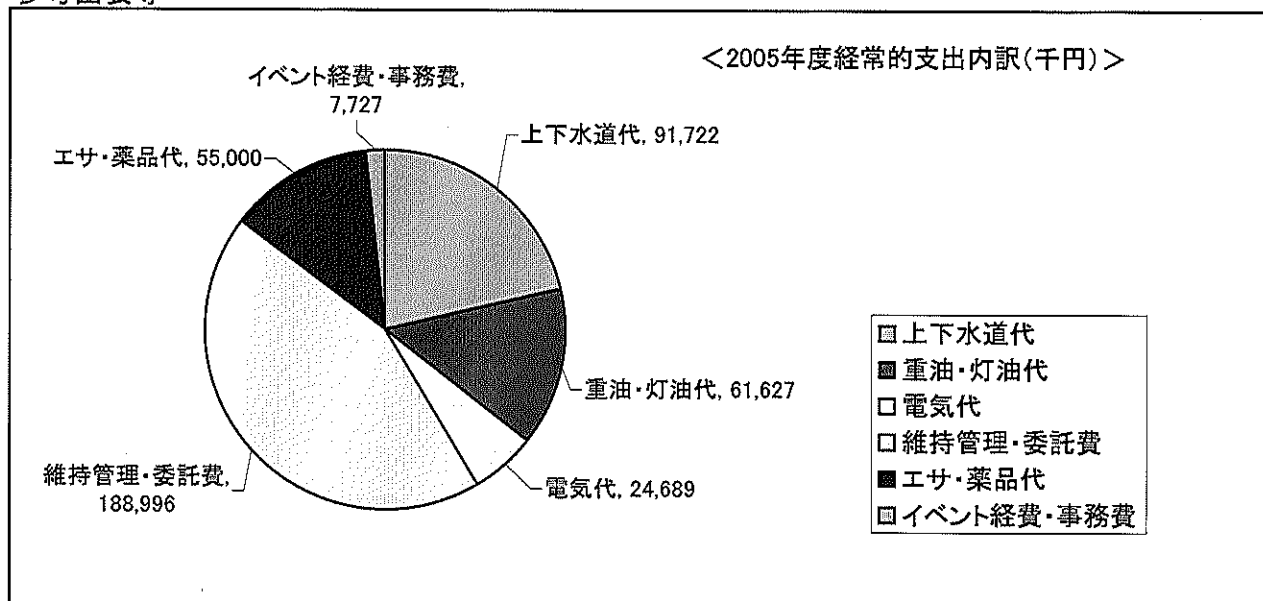
■経常的経費の削減目標値(人件費・整備費を除く)

2005年度(平成17年度) 429,760千円 → 2010年度(平成23年度) 300,832千円

<削減目標内訳>

- 上下水道代(▲40,000千円)
- 重油・灯油代(▲10,000千円)
- 電気代(▲5,000千円)
- 維持管理・委託費(▲60,000千円)
- エサ・薬品代(▲15,000千円)

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
基本構想を支える経営体制の確立	-	-	18年度

## 概要

基本構想の理念を実現し、経営に関する数値目標を着実に達成していくには、これまで以上に強力なマネジメント体制と、積極果敢で柔軟な組織文化の醸成が必要である。また、経営状況を常に市民に公開し、経営主体についても一定の条件下で抜本的な改革を行う。

## ＜具体的な取り組み＞

- ・園長のリーダーシップ(数値目標の公開、経営体制の強化/2006年度実施済)
- ・職員参加型プロジェクト(園内検討会議、冬の動物園プロジェクト設置/2006年度実施済)
- ・飼育グループ制(ボランティアと一体となったチーム作り/2007年度一部実施済)
- ・人材育成(人材交流、講師派遣、視察研修など/2006年度実施済)
- ・市民動物園会議(経営状況や施設整備計画の監視/2007年度設置済)
- ・指定管理者制度、飼育職の検討(経営改善後、全国的な導入状況を勘案して検討)

## スケジュール

2006年(平成18年) 初の事務職園長を迎え経営体制の抜本的見直しを行う  
 2007年(平成19年) 従来組織を経営管理課・飼育展示課に再編、市民動物園会議設置  
 2008年(平成20年) 飼育グループ制の導入

## 参考図表等

--